

露頭の風景 写真家の視点

斉藤 麻子

写真の岩は、「遠野物語拾遺」第11話によると、この岩の上に弁慶がさらに他の岩を乗せたところ、おれは位の高い石であるのに一生永代他の大石の下になるのは残念だと言って、一夜じゅう泣き明かしたことから、“泣き石”と呼ばれるようになったとあります。民話や言い伝えで語り継がれたり、ご神体として祀られている岩は全国各地に多くありますが、そのような岩に地質の解説が入ると情緒に欠けてしまいますでしょうか。実際のところどのように形成されてここに至ったのか地質的背景を知りたいと思うことがよくあります。物言わぬ岩に物語を作り、ある意味合いを持たせることによって後世に語り継ごうというの

は、先人の自然への畏敬の念からかもしれません。現代の私たち宛ての何かのメッセージのようでもあります。そしてそのような伝承に敬意を払いつつも、全く対称的な地質の話とも比べられ、その土地の成り立ちという角度からも岩を見ることができるのは、現代人に与えられた特権ではないでしょうか。物語では少し傲慢な人格を与えられてしまった“泣き石”ですが、特にそのような不名誉も意に介さず、山道を息を切らしながらやって来る参拝客や観光客を、もう何世代にも渡ってただただ眺め続けているようにも見えて、木洩れ日を静かに写し出していました。

地質屋の視点

及川 輝樹

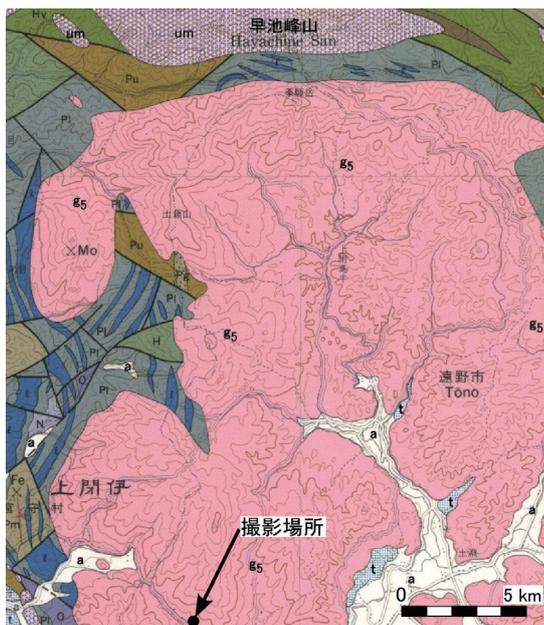
遠野市が位置する北上山地、特にその南部は、約4億4千万～2億5千万年前にかけて形成された古生代シルル紀からペルム紀の地層、日本の中では古い地層が広くみられることで有名です。その古い地層にマグマが貫入し、それがゆっくり冷え、多くの花崗岩類がつくられました。そのうち、およそ1億1千万年前の中生代前期白亜紀につくられた遠野複合深成岩体（遠野花崗岩）は、北上山地最大規模の花崗岩類です。地表に露出した面積は615 km²、南北37 km、東西22 kmにも及び、ほぼ東京23区と同

じ面積が花崗岩類で占められています。遠野花崗岩を含めた北上山地の花崗岩類は、まだ日本海が形成されていない、日本列島が大陸の縁辺部に位置していたころの火成活動によってつくられました。

写真の“泣き石”は、遠野花崗岩によってつくられており、周囲には巨礫が点在し、それらは同様に弁慶にまつわる昔話が伝えられています。花崗岩類には方状の四角い割れ目（節理）が入ることが多いようです。さらに、風化すると粗い砂のような姿に変わります。割れ目にそって風化し、砂になった部分が洗い出されると、芯の風化していない堅い部分のみが巨礫として残ります。そのため、花崗岩類が分布する地域には、周囲の河川では運ぶことが困難な大きさの巨礫が点在することがままあります。おそらく“泣き石”もそのようにしてつくられたのでしょう。

文献

- 広川 治・吉田 尚（1956）5万分の1地質図幅「大迫」及び同説明書。地質調査所，31p.
- 加藤碩一（2005）石の俗称 みちのく石便り（その5）. 地質ニュース，no. 606, 57-67.
- 御子柴（氏家）真澄・蟹澤聰史（1998）北上山地，遠野複合深成岩体の岩石化学的特徴。地球科学，62，183-201.
- 吉田 尚・大沢 穠・片田正人・中井順二（1984）20万分の1地質図幅「盛岡」。地質調査所，1 sheet.



20万分の1地質図「盛岡」(吉田ほか, 1984)の一部に加筆。g₅が遠野複合深成岩体(遠野花崗岩)。a, t, um以外は、古生代の地層。撮影地点は地質図の南端付近に位置する。